

2024 年度 春季大会 総評

GOOD(よかった, 続けてほしいことなど)

〈オフェンス〉

- ・外からのシュートも嫌がらず, マークマンが離れていたらシュートを狙う意識がついてきた。
- ・女子もワンハンドシュートが定着してきた。
- ・きれいなシュートフォームの選手が増えた。
- ・スティールから周りの選手の走り出し(ブレイクを狙う)が速くなってきた。

〈ディフェンス〉

- ・ボールマン DF が1人で守り切る力がついてきた。
- ・ルーズボールを絶対マイボールにするという闘争心が随所に見られた。

BAD(課題など)

〈オフェンス〉

- ・ドリブルの突き出しやストップ時(ピボット)のトラベリングが多い。
- ・プレーが利き手に偏っている。
- ・よく転んでしまう。(状況判断の悪さから狭いところに突っ込んだり, DF に囲まれてしまったりしている)

〈ディフェンス〉

- ・ボールマンにマッチアップするときや, ヘルプに出る時, 悪い手を出してしまう。
- ・ボールマン DF が1人で守り切れているのに, 必要のないヘルプが見られた。

NEXT(今後に向けての改善点など)

- ・ゲームを最後まで戦い切る体力と集中力の向上
→苦しい時こそ仲間と励まし合い, 勝負所で最高のパフォーマンスを引き出せるように, 日ごろの練習から常に仲間とコミュニケーションを図りながら, 全力を出し切る習慣をつける。
- ・基礎的なスキル(プレーの両利き化, 突き出しやピボットなど)の確実な定着
→どんなナイスプレーも, 基礎的なスキルの上に成り立つもの。基礎をおろそかにせず, 日々の積み重ねを大切に
して確実な定着を図る。(チーム練習の時間だけではなく, 練習の隙間の時間や個人練習の時間を活用するとよい)

- ・育成マインドに立った正しいマンツーマン DF を身に付ける

マンツーマン DF 指導資料

→昨年度からマンツーマン規則が U15と同様となり, 旗を振るケースは減ったが, U12世代で正しいマンツーマン DF を身に付けることは引き続き重要な課題である。目先の勝利のみに囚われるのではなく, 選手一人一人の成長に目を向けた上で, 各チームの目標に向かって日々研鑽を積んでほしい。



また, 「育成マインド」は自チームの選手のみならず, 相手チーム, 同じ地区のチーム, 同じバスケットボールという競技を楽しんでいる全ての子どもたちに対して持つべきものである。「相手チームがいるからゲームができる」「自チームが勝つことができたのは, 相手がいたから」という前提から, 常にリスペクトの気持ちを忘れてはいけない。当然, 両チームとも勝利を目指してゲームに臨むのだが, 「自チームさえ良ければよい」という意識ではなく, 「自チームも相手チームもそのゲームから学ぶことがあり, 一層バスケットボールを好きになれた」というゲームを目指したい。

真剣勝負の中にも, ナイスプレーには敵も味方も関係なく拍手を送れるような, チームの垣根を超えて旭川地区全体で子どもたちを育成していくマインドを共有していきたい。